

道徳 ジャーナル

123号

- 21世紀 心の時代に
野生動物たちが教えてくれたこと
今泉忠明……………1
- 道徳授業 私の実践
・新版教科書の新教材! ノンフィクション教材を生かす
杉本遼……………4
- ・「道徳面白い」と子どもが感じる実践を目指して
西川弘規……………6
- 浅見先生に相談です!
道徳の授業を楽しんでほしい!
浅見哲也……………8
- どうなるこれからの道徳授業……………10

21世紀

心の時代に

野生動物たちが

教えてくれたこと

野生動物調査と書籍監修と講演と

私が動物学者の道を歩み始めたのは、小学三年生のときです。動物学者である父と高尾山へ行ったことがきっかけでした。それから今まで七十年近く動物調査を続けています。

現在は主に富士山麓^{さんろく}へ行っています。月に二回、一泊二日の調査を行い、帰ってくるとデータ整理に明け暮れます。

児童書や図鑑など、書籍監修の仕事もしています。私のしている監修とは、動物に関する文章や挿絵等に誤りがないかどうかをチェックすることです。また、「面白い話があれば、編集者に提供もします」。

中でも『ざんねんないきもの事典』シリーズ（高橋書店）は映画やテレビアニメにもなって、非常に多くの子どもたちに読まれているようです。

これまで動物の本というと、動物たちの「かわいい」「かっこいい」面を扱ったものが中心だったのに対し、「ざんねん」という切り口は、ユニークで新鮮でした。だからこそ反響も大きく、多くの人に読んでもらえたのでしょね。



大人気となった『ざんねんないきもの事典』シリーズ



動物学者
いまいずみたあき
今泉忠明

私も、この本を通して、美化されないありのままの野生動物の姿を、楽しく子どもたちに伝えられると思い、シリーズの監修を続けています。

子どもたちに分かるように野生動物の世界を伝えることが、私の信念の一つでもあるので、児童書の監修は多く手掛けています。

そうした書籍のヒットもあってか、最近は小中学校での講演の仕事も多くなりました。

普段、野生動物をあまり目にするのがない子どもたちですが興味は津々です。解説しながら山で撮った映像を流すと一時間でも集中して見えています。

さらに講演では、たくさん質問も受けます。講演の内容に関するものから、「先生が好きな動物は何かですか」といったものまでいろいろです。その際、私はすぐ答えないで「君が好きな動物は？」など聞き返すようにします。すると子どもたちは自分の言葉でどんどん話してくれます。一方的に教えるのではなく、子どもたちの意見を聞くのが大切だと思っています。

子どもの頃から野生動物に触れて

私の父は、一緒に野生動物調査をしながら、どの種類が珍しく、どの種類が研究にとって貴重かなどを教えてくださいました。すると子どもながらに、動物を「研究対象」として見るようになりました。感情ではなく、動物のありのままの姿を捉えるのです。

調査では、わなをしかけて動物を捕り、それを標本にする作業もありました。

ネズミなどの標本はこの頃からすでに自分で作っていました。体の仕組みが分かると、うまく作れるようになるので、一生懸命取り組みました。

標本を作っているときは、さすがにただの「研究対象」とは思えませんでした。命の尊さを肌で感じました。標本となる生き物への敬意が、自然に湧き上がってくるのです。

「この個体を博物館で永久に残そう」「決して無駄にせず、野生動物をより深く理解しよう」

そんな思いを胸に、丁寧に作業をしました。「かわいい」から大切なのではなく、命そのものが大切なのだということが、ありのままの命に触れて分かりました。今でもその思いは変わりません。

ただ現在は、わなで捕ることはあまりなく、赤外線センサーのカメラで、野生動物を撮影することが中心です。



講演などの合間をぬって、月に2回はフィールドワーク

教えるのはやり方だけでいい

私は子どもたちに向けてフィールドワークの教室も開催しています。その際に、子どもの自主性を育むことを心がけています。

例えば林などに行ってポリ袋を渡し、「何でもいから集めておいで」と言つと、みんな二時間くらいかけて、一生懸命いろいろなものを取ったり拾ったりして、私に見せてくれます。そこで「おお、これは珍しいんだよ。すごいね」などとほめて、図鑑と一緒に開きます。そして一緒に調べます。そうすると子どもたちは、次から集めたものを、自分で図鑑を使って調べ始めるのです。

このとき大切なのは、子どもと一緒に調べ、やり方を見せることだと思います。「調べなさい」と指示だけして放っておくのではなく、ずつつきつきりでもなく、まず一緒にやって、やり方を教える。

これは私自身の子育てと同じで、この子育ては野生動物から学んだところが大きいです。

例えばネコ科の親子がそうです。母親が子どもに狩りを教えるとき、子どもの前で獲物を仕留めて、やり方を見せます。子どもはそれをよく見て、真似をします。真似をして、自分で何度もやってみて、やがて上達するのです。子どもはそうやって自ら学ぶものだ、私は実感しました。

自転車の乗り方を教えるときに例えると分かりや

すいかもしれません。まず自転車に乗っていると
ろを見せ、次に子どもの自転車の後ろを押して一緒
に加速してあげると、手を放しても、子どもはその
後自分の力で進みます。

知識を共生のために生かそう

私が子どもたちにもう一つ、意識して伝えている
ことがあります。それは「人間と動物は異なる」と
いうことです。これまで野生動物を研究してきて、
改めて思ったことです。

人類も動物の一種です。しかし言葉などを通じ
て、自分たちの知識や考えを次の世代に伝え継ぎ、
文化をつくり、共有したり発展させたりしてきたの
は、私の知る限り人類だけです。

個体の命は有限ですが、人間は自分の得た知識を
子孫の代に伝えることで、知識は生き続け、ほかの
動物にない力を持ちました。

もちろんそれは決して人間が傲慢になつていいと
いうことではありません。むしろ逆です。人間の持
つ力を自覚して、それを良い方向に使うこと、そう
しないと動植物との共生はおろか、地球自体を壊し
かねないということです。そのためには、力を使う
人間の心を養わねばなりません。ここで「道徳」が
必要になってきます。

小学校・中学校の道徳科では「生命の尊さ」「自
然愛護」「感動、畏敬の念」という、内容項目があ

ると聞いています。

これらを育むには、逆説的なようですが、まず人
間と動物の違いを知り、人間の持つ力を自覚するこ
とです。人間の選択が地球や自然に及ぼす影響の大
きさを知れば、目先の利害や感情などで判断するこ
とは危険だと分かるでしょう。

その上で、人間の望むような見方ではなく、ありの
ままの命に向き合うことです。人間がどう思うかで
はなく、「命」自体が大切なものだとしてほしいです。
そしていちばん大事なのが、それを伝えていくこ
とです。先述の通り、人間は良いことも悪いことも
伝え継いでいく手段を持っています。親から子へ、
先生から児童・生徒へ、社会が良い方向に向かうに
はどうすればいいかを考えられるよう、伝えられる
ようにしたいですね。

常に新しい夢をさがして

この夏（二〇二四年夏）、私は四国へ行く予定で
す。目的はニホンカワウソの調査です。二〇二二年
に環境省によって絶滅種に指定されましたが、ニホ
ンカワウソの目撃情報は、いまだにあるのです。

実際に私もニホンカワウソと思しき写真を見せて
もらい、調査の必要があると感じました。

その後は、九州へニホンカワウソの調査にも行き
たいです。ニホンカワウソも絶滅種とされています
が、やはりそれらしき写真が撮られているのです。

絶滅したと思われる動物たちを、もう一度見つけ
出す。考えるだけで、わくわくします。それは私の
一つの夢であり、目標です。目標を持つと、それが
生きる力になります。毎日がいきいきとしてきます。

先生たちは、子どもたちとの時間を共に充実させ
ながら、その中でぜひ目標を見つけてみてください。
子どもたちに関わることで、自分のことでも、ど
んな小さなことでも、何でもいいのです。

子どもたちは先生が大好きで、いつも先生を見て
います。子どもたちがいきいきとするには、まず先
生たち自身がいきいきと過ごすことが何より大切だ
と私は考えています。



雪山での作業は過酷。でも夢があるから頑張れる。

道徳授業私の実践

新版教科書の新教材！

ノンフィクション教材を生かす



東京都足立区立
足立小学校教諭

杉本 遼

はじめに

令和六年度から、新しい教科書が使われるようになりました。各出版社の工夫された特色のある新版教科書。注目したいのは、やはり新教材です。

授業づくりに挑戦したのは学研の新教材「名人をこす 藤井聡太」です。

ご存じの通り藤井聡太さんは、中学二年生のときに史上最年少でプロになると、無敗を続け、公式戦最多連勝記録を達成。令和五年、史上初の八冠に輝いた棋士です。

多くの子どもたちが、関心を持つことができ、名前を出すだけで、学習への意欲を高めることにつながる人物だといえます。

授業の概要

○**主題名** 藤井聡太から何を学ぶか？
(目標と努力と負けず嫌いとは…)

○**教材名** 「名人をこす 藤井聡太」
(『新版 みんなの道徳4』学研)

○**ねらい** 藤井聡太が名人になれた理由を話し合い、藤井聡太から学ぶことを考えることで、目標に向かって粘り

強くやり抜こうとする道徳的判断力を養う。

ノンフィクション教材を生かす

道徳科の教材は、ノンフィクション(実話に基づく教材)と、フィクション(創作による教材)があります。実話も創作も、それぞれのよさを生かすことで、魅力ある授業をつくることができます。教科書の著作者でもある東京学芸大学の永田繁雄教授は、ノンフィクション教材の授業づくりで配慮することとして三点を挙げています。

- ① 事実の受け止めの重視
- ② 事実に立ち返る機会
- ③ 補助教材の充実

エピソードや写真、映像などの資料を用いて、事実を確認する機会をつくり、事実認識を大事にし、リアリティや迫真性を生かした授業にします。

今回活用した「名人をこす 藤井聡太」の教材は、実在する藤井聡太さんのノンフィクション教材です。この授業の展開で藤井聡太さんの思いを考え、た上で、現在の藤井聡太さんの思い、事実を認識し価値観を育むことができるように、動画サイトにある芦田愛菜さんとの対談の映像を視聴しました。

授業の実際と考察

○導入

T この人を知っていますか？

C 藤井聡太！ 負けちゃった。(令和六年六月伊藤匠七段との対局)

写真を提示するだけで、すぐに関心を持ち、最新のニュースにつなげて、子どもたちは話を始めました。

「心に残ったことや疑問に思ったことは、何か？」

強くになりたいと思い、本気になれるものがあるっていいな。

「うまいくなくて、もう、やめた！」ってならないのがすごい。

小さい頃から一つのことを続けて飽きないの？ 自分は飽きちゃう。

Ｔ どうして、藤井聡太さんは名人になれたのかな？ どう思う？

「負けず嫌い。負けた理由を考え
た。泣くだけじゃダメ。」

名人になるだけでなく、理想の将棋をしたいって思っていた。

読むだけで目標や続けることの大切さを感じます。しかし、そこで終われば、授業の意味はありません。子どもたちは、「負けず嫌い」という言葉に着眼し、深掘りしていきましました。

「普通「名人になる」だよ。でも、藤井さんは「名人をこす」という夢だった。これって同じ？」

「名人をこす」は、具体的な目標。

「名人になる」だったら、名人に

なったら目標達成。「名人をこす」
だから、八冠につながった。

Ｃ 向上心……。藤井さんの夢は一生終わらない。一生将棋を続ける。

Ｔ　とはいえ、名人になるのも大変で
しょ？　藤井聡太さんは、やめた

いとは思わなかったのかな？

う。私はダンスが好きだけど、疲れてやめたいと思ったことがある。

で、追究していた。なかっただと思う。将棋が大好き

Ｃ　どんな人でもくじける時がある。ただ、夢があるから続けられる。

C 名人になる人は、「やめようかな」
って考えている暇なんてないんで
すよ！ 名人を越したい一心。

「名人をこす」という言葉に強い思いがあると考えます。比較によってその思いを考えることを促しました。「やめたいと思ったことはなかったか？」と問うことで、子どもたちは自分と重ねながら考えました。

Ｔ 藤井聡太さんの思いは実際どうだった

たのだろう？ 動画を見てみよう。

C
(動画視聴)

Ｔ
こう考えられる

のは名人になる
ようなすごい人

だけかな？ 藤

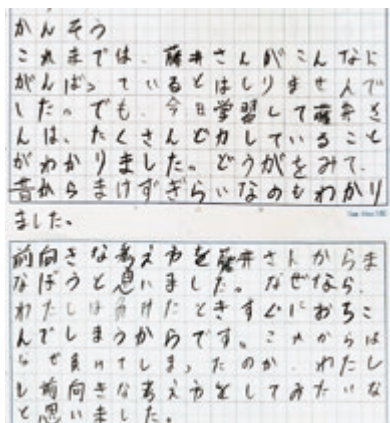
井聡太さんから

どんなことを学べるかノートに

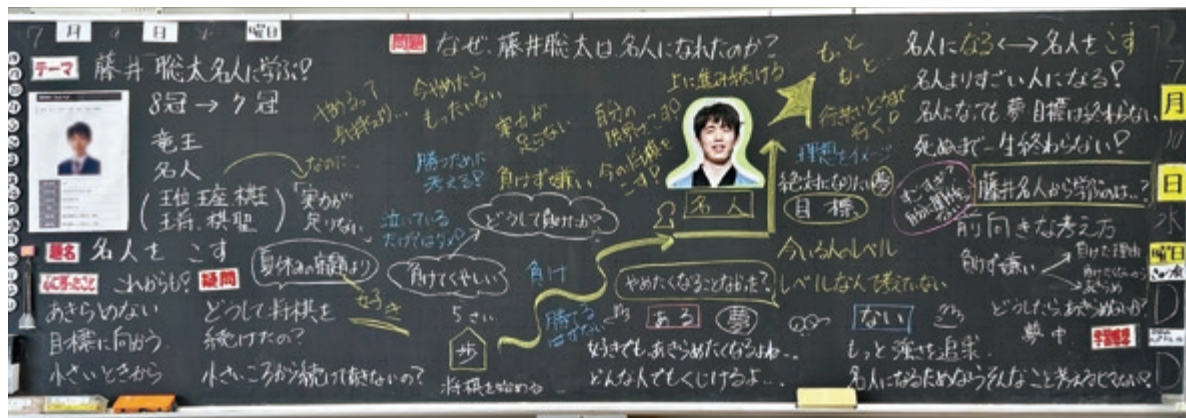
書きましょう。



○子どものノートの記述



【参考】
「ノンフィクションのもつ迫真性に正対する」
永田繁雄『道徳教育』二〇二〇年二月号
明治図書出版
「芦田愛菜18歳から藤井聡太20歳へ「憧れの
方はいますか？」」(動画)



(すぎもと りょう)

道徳授業私の実践

「道徳面白い」と

子どもが感じる実践を目指して

はじめに

「子どもたちに力をつけたい」。これは全ての教職員の願いです。この願いを実現するためには、子どもの実態を正しく捉えることが不可欠だと私は考えています。そして、子どもたちが力をつけることが、「道徳面白い」と感じることに繋がるとも思います。

では、子どもたちが「面白い」と感じる道徳実践とはどのようなものなのでしょう。

①「発言したい」と思うこと

②自分の発言が生かされること

③学びを実感できること

この三点が重なり合ったときに、子どもたちは「面白い」と感じると考えています。私は、どの教科においてもたくさん発言ができる授業にしたいと考えています。そのため道徳科では、子どもたちに学習の見通しを持たせ、何をすればよいのかが分かるように、導入↓範読↓交流①↓交流②↓振り返り（詳細は図①）という展開で毎回授業をしています。

また、子どもたちの意見をもとにした学習展開にするため、導入部分で内

○学習の流れ2024

・内容項目に準じたためあてを指定します。（例：友情について考える。） ・内容項目に照らした質問をします。 ・（どんな時に友情を感じますか」「友だちとはどんな存在ですか」等） →子どもの様子を見て、子どもたちの到達度を確認する。	導入
・教師が範読します。子どもが理解できるように範読後に、漢字の読みや意味がわからない言葉がなかったかを確認します。また、近くの席に座る子と確認するものもです。 ・範読をしている間に、何かを感じたところに線を引かせます。 （例：スナーク→〇、残念→△、疑問等→？）	範読
・線を引いたところを元にして感想を語らせて。10人程度発言させ、ある程度多様な意見が報告されるようにします。	交流①
・交流①で発言したことから、内容項目に照らした質問をします。 （例：本書の友情とは？ あなたならできる？ これがなければどうなるか？等）	交流②
・一時的な正解（絶対解）ではなく、子どもにとっての正解（納得解）を導かせる。 （例：今日授業で学んだこと→これからの自分等） ☆最終的に子どもが得ると思われるような形にする。	ふりかえり

図①授業展開

容項目について問うようにしています。この場合で、子どもたちが内容項目について明確に捉えられていた場合は、交流②でこれまでの生活体験を聞き、捉えられていない場合は、教材内容の読み取りをさせています。このように展開をいくつか予定することで、



三重県松阪市立
山室山小学校教諭
西川弘規

子どもたちの実態に即した交流・議論ができる授業となり、自分自身や友達の考えと向き合えると考えました。

教材について

○主題名 信頼し合える友達

○内容項目 友情、信頼

○教材名 「いのりの手」（『新・みんなの道徳4』学研）

○ねらい 登場人物の思いや行動を知る中で、友情とは何かを考えると共に、友達と互いに理解し合い、信頼して助け合おうとする気持ちや態度を育てる。

授業の様子

【導入】

本時のめあては「友情について考える」と設定しました。一概に友情といっても、人によって捉え方はさまざまです。まず「友達」とはどのような存在か、子どもたちに聞きました。私は、本教材における友情とは、「自身の損得以上に相手のことを考えられる存在」と考えました。子どもたちはさ

さまざまな発言をしたものの、この「損得抜きで相手を思いやる」視点で捉えている子は少数でした。そこでこの視点に気付けるよう、登場人物の関係を中心に読み取らせるように授業を展開しました。

【範読交流①】

子どもたちには、心が揺さぶられた文に線を引かせました。その後、線を引いたところをもとにして感想を交流しました。

C: ハンスはデューラーのために働いてすごいと思いました。

C: デューラーは、毎晩ハンスのことを思い出して、勉強しているからすごいと思います。

C: 自分のことを心配するなど言えるハンスはすごいです。

C: 何年も努力ができる二人はすごいと思います。

こうして、子どもたちの物語理解の確認とともに「自身の損得以上に相手のことを考えられる存在」について捉えられているかを確認しました。

【交流②】

ここでは、ハンスに後悔はなかったのかを尋ねました。

C: デューラーが頑張っていたから後悔はないと思います。

C: デューラーの夢がなかったから、逆に喜んでいっていると思います。

C: 同じ夢を見た仲間が夢をかなえられたから、後悔ではなくうれしいという気持ちだと思います。

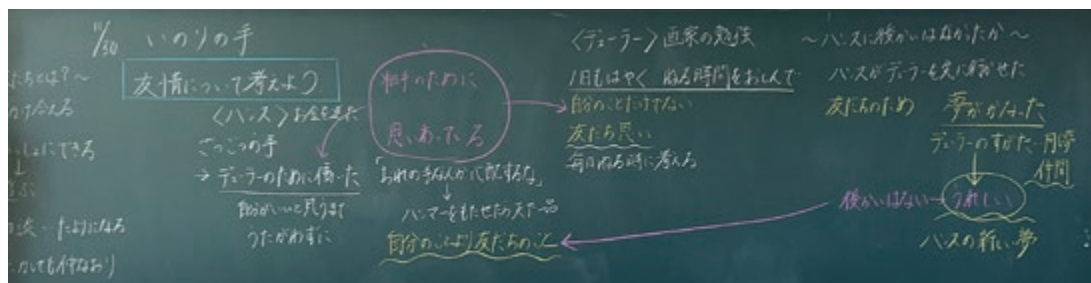
C: 手のことを気にするなど言っているので、後悔はないと思います。

子どもたちは、ハンスに後悔はなかったと答えました。その理由は、「友達のためにしたことだから」「デューラーの姿を見ていたから」というものでした。

子どもたちの発言後に導入部分で確認した内容を振り返り、話し合った内容と比較させました。子どもたちからは「一緒に喜べる存在」「自分のことより相手のことを考えられる存在」「同じ夢に向かって努力できる存在」という考え方が、今までの自分たちの「友達と比べて、新しい考え方だと気付いた」という意見が出ました。(図②)

【振り返り】

「ハンスのように友達のために何かしたことがあれば振り返りに書きましよう」と声かけをして、書かせました。



図②板書

子どもたちの振り返りには「いままではそこまで友達のことを考えていなかったけれど、これからは考えていきたい」

い」という内容が多く書かれていました。

おわりに

子どもたちが「道徳面白い」と感じるには、自分たちで授業をつくり、ねらいに迫ったという達成感が必要です。そのためには、自由に発言できる学級づくりが不可欠です。道徳科では見通しを持たせると共に、道徳の教科特性である「正解はなく、子どもたちそれぞれの考えが答え」という点を、発言のしやすさにつなげていくことが手立ての一つだと思います。

指導者は子どもたちの実態を把握した上で、授業展開を選択する必要があります。展開予定のパターンをいくつか持つていけば迷わずに授業を進められます。指導者が迷わないことが子どもたちの安心につながり、ひいては「道徳面白い」につながります。

今回のように、まず子どもたちの実態を捉え、子どもたちが「面白い」と感じられる授業を多く行っていきたいです。

(にしかわ ひろき)

浅見先生に 相談です!

第1回



十文字学園女子大学教授

道徳の授業を楽しんでほしい!

他教科等との学び方の違いに戸惑う児童生徒もいるようです……。

浅見哲也



マンガ・春原弥生



道徳の授業は好きですか?
苦手ですか?

道徳の授業は、教材を読んで話し合うという学びが定着しています。子どもたちからは、お話を読むことが好きという声が根強くあり、教科書が配られると自分で読み進める子どもも少なくありません。授業で教材を読んだ後に話し合うことが、かえって子どもたちの新鮮な感動を奪ってしまうのではないかと、指導に不安を感じる先生もいることでしょう。

教師は、子どもたちの道徳の授業の楽しみをどこに見いだせばよいのでしょうか。授業を行う前に、道徳の授業が好きかどうかを問うと、「好き」と答える子どもの理由には「何を言ってもいい」「友達のことを知ることができる」などの回答が聞かれます。反対に「苦手」と答える子どもの理由には「気持ち悪くなるのが難しい」という回答をよく聞きます。この両者の回答を比較してみると、子どもたちの道徳の授業に対する捉え方の違いが見えてきます。だからこそ私は、苦手意識のある子どもたちに、道徳の学び方を教えてあげたいという思いを強くするのです。

道徳の授業の学び方

道徳の授業では、教材を読み聞かせた後に、教師が発問をして話し合うわけですが、子どもたちは何

を考えながら教師の範読（読み聞かせ）を聞いていればよいのでしょうか。

教材のあらすじを理解することはもちろんですが、道徳の授業では、子どもたち自身がある登場人物に自分を重ねながら教師の範読を聞き、自分をその場の状況に置いてみたら、どんな気持ちや考えになるのかを想像しながら聞くことが大切です。ここから登場人物への自我関与が始まっていきます。

つまり、教師の範読が突然始まり、その後すぐに発問されると、国語の学習に慣れている子どもたちは、当然、登場人物の気持ちを読み取ろうとします。

道徳が「好き」な理由として「何を言ってもいい」と回答した子どもは、自分自身に素直に向き合い、自由に発言する楽しさを感じ取っていると思われませんが、「苦手」と回答した子どもは、登場人物の「気持ちを考えるのが難しい」と感じていることが予想されます。道徳の授業の学び方として、まずはこの読み取ろうとする誤解を解く必要があります。

次に、どんなことを考えるのかを伝えることもお勧めします。私はそのことをよく天使と悪魔に例えて子どもたちに伝えていきます。人の心には天使の心と悪魔の心があります。天使は正しい方向に導こうとする心で、悪魔は素直に感じる心です。例えば、目の前においしそうなケーキがあります。悪魔は、食べようと言います。でも、天使は、もしかしたら他人の物かもしれないからすぐに食べてはいけないうつわけです。道徳の授業では、教材の登場人

物に自分を重ねたときに、自分の心の中にいる天使と悪魔は、どんなことをつぶやいているのかな、どんな気持ちでいるのかなと考えて、それを自由に表現してみてくださいと伝えていきます。悪魔の心を出し合うと人間の本性が表れて面白いですし、一見真面目そうに見える子どもにも悪魔の心は潜んでいます。ときには「悪魔は先生にもいるからね」と伝えるとき子どもたちは安心し、喜ぶものです。

さらに、考える道筋を伝えてあげるのもよいでしょう。初めに、誰の心にも少なからずいる悪魔の心にはどんなものがあるのかをみんなで確認します。次に、天使の心を感じ取って、自分の心の中で戦わせます。そのときにどちらが勝つのか、その理由を出し合います。いつも天使が勝たなくてもいいのです。自分が大切にしたい心を見つけていくのです。しかし、最後は自分の心の中の天使を強くしていきます。自分にもともと備わっていたものをパワーアップさせたり、足りなかったものは友達からアイテムを手に入れて、今いる天使をバージョンアップさせたりしていきます。このように自分の心をよりよいものにしていくのが道徳の授業の学び方なのです。必ずしもよいことばかりを言うのが道徳の授業ではないこと、また、自分の気持ちを素直に表現し、みんながそのように表現すると、自分の周りにはさまざまな気持ちや考えがあることに気付くこと、さらには友達の心（考えや気持ち）を知ることから、自分の心をバージョンアップできることなど、他の

教科等にはない楽しさを味わうことができるのが道徳の授業なのです。

道徳的価値の三つの理解

こうして、ある内容項目に含まれる道徳的諸価値の理解を基に道徳の授業が展開されますが、この道徳的価値の理解について、「小・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」では「価値理解」「人間理解」「他者理解」という言葉で説明しています。

「価値理解」とは人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること、「人間理解」とは道徳的価値は大切であっても、なかなか実現することができない人間の弱さなどを理解すること、「他者理解」とは道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であるということを前提として理解することです。一般的には、人間理解↓他者理解↓価値理解と順を追って自他の心を理解して、自分の心、つまり道徳性を養っていきます。全ての子どもたちが話し合いに参加できるようにするために教材を活用し、教師がこうした理解を促す発問をするのです。これが道徳の授業の一連の流れであり、子どもたちにも分かるような言葉で伝えられ、自由に表現する楽しさを味わいながら道徳の授業に参加できるようになります。次の授業の冒頭で、子どもたちに伝えてみてはいかがでしょうか。（あさみ てつや）

どうなるこれからの道徳授業

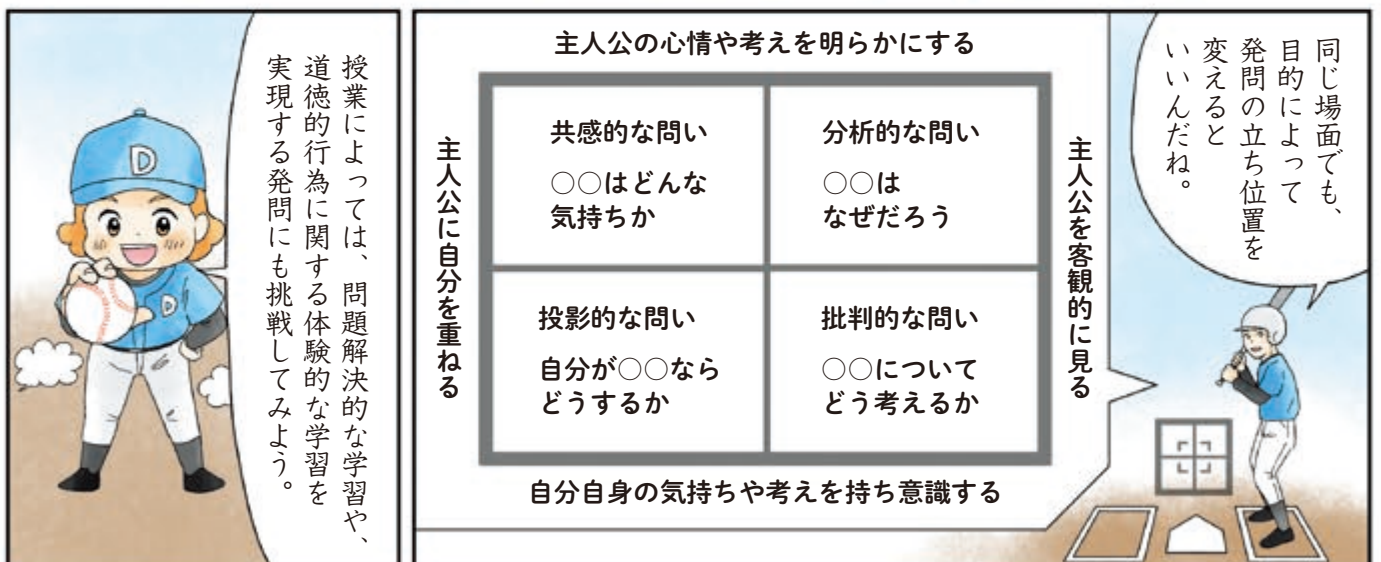
連載25回 発問の工夫編

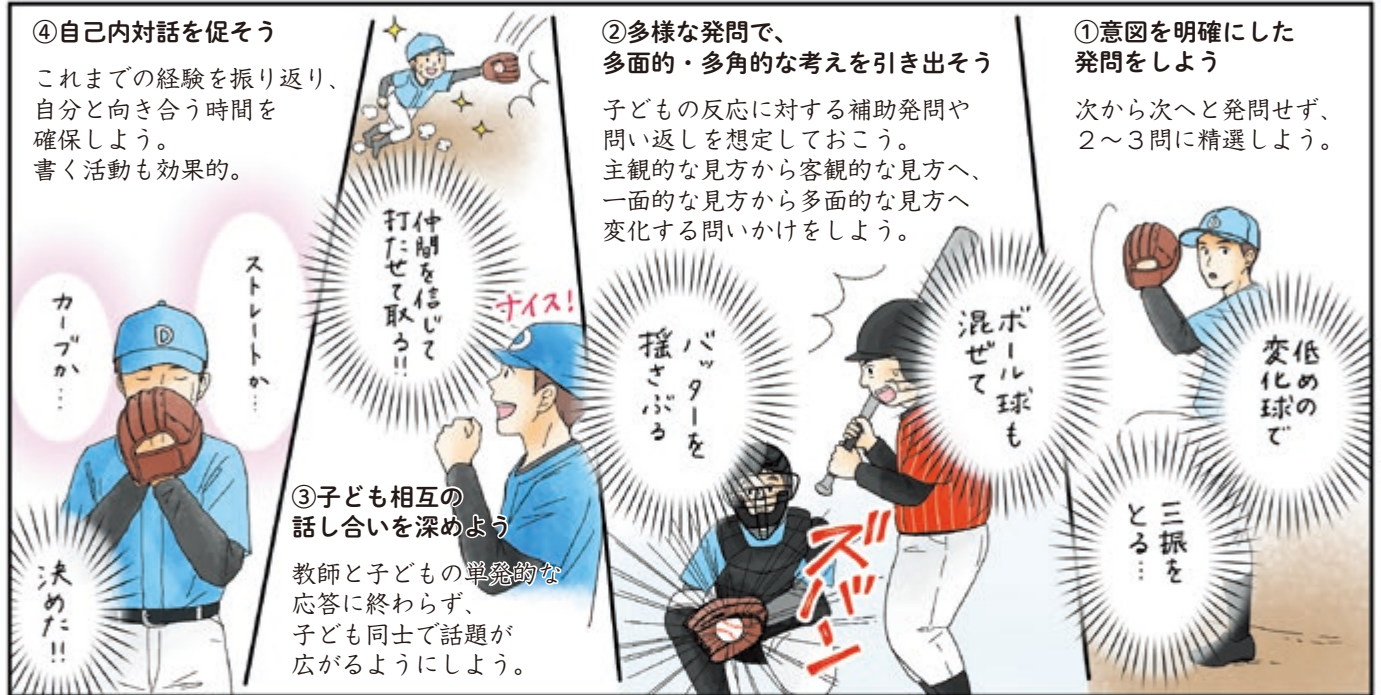
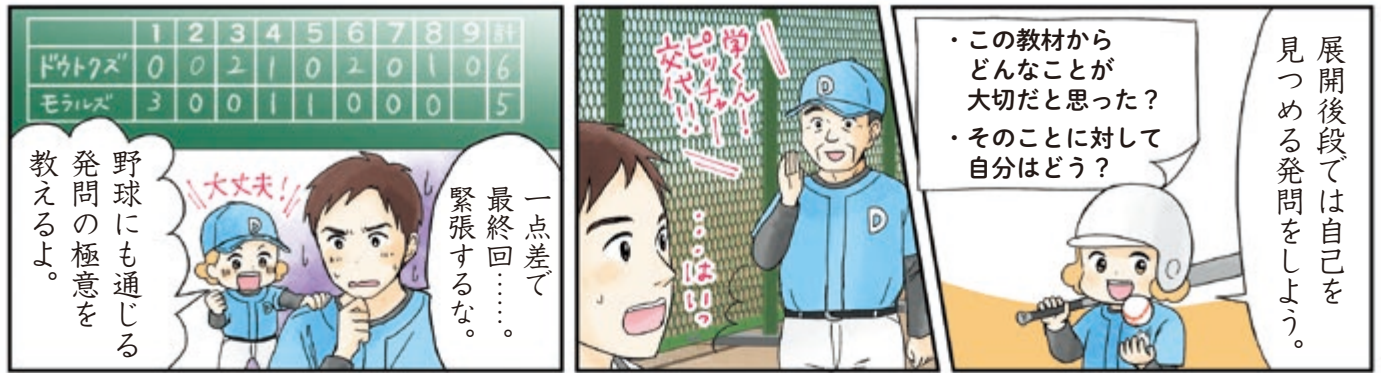
とくちゃん

監修・廣瀬仁郎 法政大学兼任講師
マンガ・のはらあこ

学先生







道徳ジャーナル123号 令和6年11月発行

発行所 株式会社Gakken 発行人 木村昌弘／編集人 麻生征宏

本誌のお問い合わせ先…小中教育事業部 〒141-8416 東京都品川区西五反田2-11-8

内容については…TEL (03) 6431-1565 (編集) それ以外のことは…TEL (03) 6431-1151 (販売)

「学研 学校教育ネット」 <https://gakkokyoiku.gakken.co.jp/> ●『道徳ジャーナル』のPDF版はWEBページから。

9300009613

『道徳ジャーナル』読者アンケートにご協力ください

よりよい紙面づくりのため、『道徳ジャーナル』へのご意見やご感想、
道徳に関する悩みや疑問をお聞かせください。



◀左のQRコードから
アンケートにご回答
いただけます。